沿岸被災地へ続く復興の道路「遠野かっぱロード」が開通

国道340号土淵バイパス（愛称：遠野かっぱロード）は12月25日正午、全線開通し、その開通式が現地などで行われました。参加した80人の関係者は、沿岸地の復興へつながる道路の完成を祝いました。

式典で遠藤達雄県南広域振興局長は「復興へつながる道となるよう、今後も改良整備に努める」と気を引き締め、テープカットや車列パレードなどで祝いました。

同線は県が平成19年度から改良工事に着手し、東日本大震災以降は「復興支援道路」と位置付けられ、その整備が急ピッチで進められてきました。平成24年7月には土淵町土淵～同町柏崎間の一部が供用開始され、計画より1年早い全線開通となりました。

整備された道路の総延長は4500㍍で、事業費は約17億円。この道路の開通により、沿岸へ向かう大型車両の交差がスムーズになるなど、復興への取り組みがさらに加速すると期待されます。

テープカットで開通を祝う関係者ら

綾織町と小友町を最短距離で結ぶ

小友と綾織つなぐ悲願の道路「市道二日町小友線」が開通

綾織町二日町地区と小友町をつなぐ市道二日町小友線（延長10㌔）の開通式は11月24日現地で行われ、出席した関係者や地域住民ら150人は、テープカットなどで開通を祝いました。同路線は平成5年に着工し、総事業費は18億8千万円。旧道に比べ走行時間が約8分短縮され、綾織町と小友町を最短距離で結びます。本田市長は「多くの市民の皆さまと関係者の協力のおかげで全線開通にこぎつけることができた。命を守り、地域と地域を結ぶ大切な路線として活用していきたい」とあいさつ。式典では、テープカットのほか、経緯説明や綾織保育園の園児による「大黒舞」の披露、記念パレードなどが行われました。

連携し火災現場で男性を救助「地域の絆」へ感謝状を贈呈

市消防本部は12月19日、宮守町上鱒沢で発生した住宅火災で老人を救助した5人に感謝状を贈呈しました。本田市長は「普段のコミュニケーションや地域の絆が生きてこその救助。危険を顧みず救助に当たっていただき、大変ありがたい」と感謝しました。

感謝状が贈られたのは（写真前列左から）内田律子さん（53）＝綾織町＝、多田由起子さん（35）＝同＝、（写真後列左から）多田康美さん（63）＝綾織町＝、多田広樹さん（38）＝同＝、田中万正さん（55）＝土淵町＝の5人。

火災は11月20日の16時ころ発生し、火事に気付いた内田さんが多田由起子さんを通じ消防署へ通報。火災宅に寝たきりの74歳の男性がいることを知っていた内田さんは、近くにいた多田康美さんらに伝え、駆け付けた4人で協力し、猛火の中から男性を救出しました。内田さんは「燃え方が普通ではないと感じ、すぐに通報するようお願いしました。当たり前のことをしただけですが、これを機会に有事の際には今回のような行動を心掛けたい」と、多田広樹さんは「火の勢いが強かったが中に人がいることを知っていたので、とにかく助けたいという一心でした。救助できたのは周りのみんなが協力し合えたからだと思います。今後もいざというときにしっかり動けるよう、日常から救助できる体制づくりに努めたいです」と気を引き締めていました。

火災現場で救助にあたった皆さん

繁殖牛などを預託できる施設 附馬牛町大野平地区に完成

子牛や母牛を畜産農家から預かり飼養管理などを行う大野平キャトルセンター（附馬牛町大野平地区）が12月完成し、22日には関係者による内覧会が開催されました。

牧場の生産性や利用率を改善するため平成23年から同センターの建築や草地の基盤改修を実施。同センターの建設事業費は約4・9億円で、育成舎や繁殖舎など施設の敷地総面積は3・99㌶。市内の畜産農家から繁殖牛や哺育・育成牛など最大で440頭を飼養できます。この施設の完成により、これまでの夏山の放牧と、冬に里で飼養する「夏山冬里方式」の季節預託に加え、周年での預託が可能となり、農家の設備投資や労力の軽減が期待されます。

大野平キャトルセンターは4月から稼働する予定です。

なお、現在建設が進められている石羽根キャトルセンター（附馬牛町石羽根地区）は、平成26年度内に完成する予定です。

完成した大野平キャトルセンターの外観

さらなる子育て環境の充実へ
わらすっこ支援委員会が新たにスタート

市の子育て支援施策を後押しする「わらすっこ支援委員会」（委員15人）は12月11日に設置されました。同委員会は平成22年に設置されていましたが、子育て環境のさらなる充実を図るため、市わらすっこ条例の改正に伴い再スタート。子育て世代や教育関係者ならではの視点で子育て支援施策を評価・検討し、必要な施策を提言していくなど、旧体制よりも機能を充実させました。委員に任命された人は次のとおりです。

▷内田憲（遠野警察署）▷大沼宗範（弁護士）▷佐々木道子（光の園幼稚園園長）▷高橋幸子（青笹保育園園長）▷留場和夫（市主任児童委員部会長）▷藤山重理子（ＳＭＣ株式会社遠野工場推薦）▷加藤博子（遠野聖光幼稚園保護者会会長）▷菊池和子（校長会代表）▷菊池圭一郎（宮守保育所幼稚園父母の会会長）▷菊池セヨ（陽だまりの会推薦）▷後藤聰（市保育園父母の会連合会会長）▷須藤義幸（個人事業主）▷馬場克尚（有識者）▷松田希実（子育て世代）▷吉田満世（宮守小読み聞かせボランティア）　※敬称略

サッカーのまち「遠野」を発信 国体遠野市実行委員会設立

平成28年に開催されるいわて国体に向けた「希望郷いわて国体遠野市実行委員会」の設立総会と第1回総会は12月4日、あえりあ遠野で開催されました。参加した110人の関係者らは、同国体の成功へ心を一つにしました。

同国体で本市では「サッカー競技・少年男子」が開催されることになっており、本大会を成功させるため市内外の関係機関42団体で組織されました。本田敏秋実行委員会会長は「復興のシンボルとして開催される国体で、岩手県が飛躍できる絶好の機会。市民一丸となってサッカーのまち遠野を全国に発信しよう」と協力を呼び掛けました。

会終了後には参加者が第92回全国高校サッカー選手権に参加する遠野高校の桐田千秋校長と同サッカー部の長谷川仁監督を激励。長谷川監督は「まずは初戦突破が目標。国体へは、地元選手が一人でも多く出場できるよう指導者が一丸となり頑張りたい」と力を込めあいさつしました。

本市は平成21年から同競技の市内開催を目指し要望活動を継続して、平成22年3月、同競技会場地に決定。市は今後、競技会場となる市民サッカー場を人工芝に、遠野運動公園多目的運動広場と同公園陸上競技場を天然芝にそれぞれ整備する予定です。

同国体のサッカー競技・少年男子は平成28年10月2日㈰～6日㈭の5日間、市運動公園や市サッカー場などで開催され、全国から24チームが参加する予定です。

国体成功へ向け設立された実行委員会